

科目ナンバリング		G-LAS12 80032 LJ55							
授業科目名 <英訳>		データ科学展望II Perspectives in Data Science II				担当者所属 職名・氏名		国際高等教育院 教授 田村 寛	
群	大学院横断教育科目群		分野(分類)	統計・情報・データ科学系		使用言語	日本語		
旧群		単位数	1単位	時間数	15時間	授業形態	講義（対面授業科目）		
開講年度・ 開講期	2025・ 通年集中	曜時限	集中 8月26日月曜1～5限 （対面）、8月30日金 曜3～5限（メディア） を予定しているが、 いずれも変更の可能 性あり		配当学年	大学院生	対象学生	全学向	
（情報学研究科の学生は、全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）									
【授業の概要・目的】									
情報学研究科開講の「デジタル変容実践論」と兼ねた開講になる。 情報学研究科の学生はそちらを選択すること 2018年の経産省レポート「デジタルトランスフォーメーション（DX）レポート～ITシステム「2025年の崖」の克服とDXの本格的な展開～」では、日本の経済発展におけるDXの必要性和現状・課題が報告された。しかしながら、2021年に公開された「DX白書2021年」では、日本の組織における硬直的な組織文化やレガシーシステムなどの既存の仕組が足かせとなり、必要な変化への対応が十分でないと報告されている。 Society5.0の実現による更なる経済成長や生産性の向上に向けて、社会全体のデジタル化が不可欠とされる。政府もデジタル庁の設置に代表されるように、デジタル・トランスフォーメーション（DX）を推進している。DXにより、本来の業務が効率化される恩恵は大きい。本講義では、医療や教育等を例に社会におけるDXの現状・課題・解決の方向性について議論を深めることを目指す。									
【到達目標】									
社会におけるDXの必要性がどのように位置づけられ、実施にあたっての課題にはどのようなものがあり、解決に向けた方策にはどのようなものがあるのか、を理解し説明できるようになること。									
【授業計画と内容】									
以下のような課題について、1課題あたり1～2回の授業を合計8回（フィードバックを含む）で、必要に応じて学内外の専門家の意見も踏まえながら、デジタル・トランスフォーメーション（DX）の現状・課題・解決の方向性について学ぶ。 開講にあたっては、受講生の所属するキャンパスの配置や受講形態にも配慮するとともに、対面授業以上に受講生間の活発な議論を期待し、一部同時双方向型のメディア授業で実施する。									
1. 導入 2. 教育・医療・介護におけるDX 3. 研究におけるDX 4. プロジェクトマネジメント 5. DXの評価【メディア授業：同時双方向型】 6. DXを実装した研究【メディア授業：同時双方向型】 7. 社会におけるDX【メディア授業：同時双方向型】 （8月26日に対面授業、8月30日にメディア授業の開講を予定）									
----- データ科学展望II(2)へ続く↓↓↓ -----									

データ科学展望Ⅱ(2)

なお、講義の進度・文科省のモデルカリキュラム等を反映して、内容・順序・日程の変更や省略・追加を行うことがある。

【履修要件】

京都大学「統計入門」と同等（数理・データサイエンス認定プログラムリテラシーレベル）の単位を取得していること

【成績評価の方法・観点】

平常点相当（授業への参加（出席そのものではない）・小課題・授業での発言・リアクションペーパー等）60%、レポート課題の提出等40%

【教科書】

使用しない
適宜プリントなどを配布する。

【参考書等】

（参考書）
中山 健夫「医療ビッグデータ時代」の幕開け
中室牧子、津川友介「原因と結果」の経済学——データから真実を見抜く思考法
兼安 暁「DX 最前線」(60分でわかる! IT知識)
Harvard Business Review「デジタルディスラプションに立ち向かう成熟企業の競争戦略」

【授業外学修（予習・復習）等】

参考書図書の確認、リアクションペーパーの提出などを求める。
また、オンデマンド型動画を活用した反転学習も一部取り入れるので、授業前に指定した動画の閲覧・質問の提出を求める。

【その他（オフィスアワー等）】

講義中に教員との連絡方法について指示する。また、以下の点にも留意を求める。

- ・情報学研究科の学生は、大学院横断科目として履修登録できない。情報学研究科開講の「デジタル変容実践論」を選択すること。
- ・集中講義で採点報告日以降に実施するため、成績報告に遅れが生じ得ること。
- ・医療データ人材育成事業（KEUP-DHI）受講生は、別途その旨申し出ること。

【主要授業科目（学部・学科名）】